

# 旭川医科大学の最先端遠隔医療と その国際化

吉田 晃敏 (Yoshida, Akitoshi)

国立大学法人旭川医科大学 学長

## 【要旨】

旭川医科大学病院では、地方病院から伝送される画像などの患者情報をもとに専門医が診断や治療方針を助言する遠隔医療を1994年から行っている。その運用と並行して、画像の高精細化、立体視化の研究開発も行い、2004年にハイビジョン映像、2006年には立体ハイビジョン映像のリアルタイム伝送を世界で初めて成功させた。現在は、ハイビジョンの16倍の解像度を持つ8Kシステムの開発に注力しており、8K腹腔鏡手術システムを世界で初めて導入したほか、2台の8Kカメラを眼科手術顕微鏡に取り付けて患部を立体視する3D-8Kシステムの開発にも成功している。

2016年からは、スマートフォンを用いて地方病院を支援する「クラウド医療」を導入しており、不必要な救急搬送の削減や、当院へ搬送されてから治療を開始するまでの時間短縮など、大きな成果を得ている。この成果を世界に発信（NYプラザホテルで会見）したところ、アジア各国の政府関係者や医療機関が高い関心を示したことから、「クラウド医療」の国際化を進めているところである。

日本の人口は、5年前にピークを迎え、今後は大幅に減少し続けていくことが予想されるが、その対策として、当院では外国からの患者受け入れや、外国人医療従事者の育成環境の整備などに早くから取り組んでいる。それらを円滑に実施する上で、長年の運用実績を持つ遠隔医療や「クラウド医療」は極めて重要な役割を担っている。